



災害時協力避難所の第1号となる建物を登録

災害時に避難所として利用可能な施設第1号に、JA教育研修センターを登録し、登録証の交付式を行いました。



観光シーズンの幕開け！「南国土佐観光びらき」

観光シーズンの幕開けを全国に発信する観光びらきが行われ、式典ではよさこい高知観光大使が「魅力ある観光の実現」を宣言しました。



「こじゃんと！ ゆり海道2026」を開催

高知産のユリの花を使ったフラワーアレンジメント教室や地元グルメを堪能できるマルシェなどが出店。多くの来場者で賑わいました。

「もしも」のときの豆知識 12
防災ひとくちメモ

震災時に「身近な物で」応急手当て

震災時は、大勢のけが人が同時に発生するため、救急車がすぐに来られないことも想定されます。また、けが人が多すぎると医療機関ですべての人を処置することができない可能性もあります。家屋の倒壊や家具の転倒によりけが人が多数発生した場合、そばに居る人が応急手当てをし、安全な場所へ搬送することが重要になります。

激しい出血には清潔なタオルで強く押さえて出血を止める、骨折には雑誌や傘を添え木にして固定する、担架の代わりに毛布等を使って安全な場所まで搬送するといった方法が有効です。

特別な道具がなくても、身近な物で応急手当てができます。消防局では、こうした応急手当てを学べる講習や、地域の防災訓練への講師派遣も行っています。自分や家族を守るための備えを学んでみませんか。

各種救命講習の概要や申し込み方法など、詳しくは消防局救急課HPをご覧ください。

詳しくはこちら▶



【問い合わせ】消防局救急課 ☎871-7505



work of kochi city
市役所の推しゴト

図書館・科学館課
高知みらい科学館 編

こんな仕事をしています

- 01 展示・プラネタリウムの運営
- 02 実験・体験・イベントの開催
- 03 学校の理科教育・学習サポート

Check!
高知の未来を担う理科好きの子どもたちを育てています

詳しくはこちら▶



「見て、触れて、感じて、作って、学び遊ぶ」をコンセプトに、大人も子どもも科学を楽しめる文化をつくっています！

「理科教育」と「科学文化」の2つの柱で成り立っています。高知みらい科学館の仕事は、学校の団体利用の受け入れや学習支援を通じて、子どもたちを「もっと理科好きに」すること、展示やプラネタリウム、楽しい科学イベントを通じて、大人も子どもも「科学を楽しむ文化」を育てることです。スタッフの育成や各種研修など、科学館の裏側でもこれらの活動を支えるさまざまな業務を行っています。

科学の不思議や楽しさを体験しに、ぜひ遊びに来てくださいね！

【問い合わせ】図書館・科学館課
高知みらい科学館 ☎823-7767

SDGsのゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」は、性別を理由に差別されることなく、全ての人がある能力を最大限に発揮できる社会をめざすものです。ジェンダーとは、生まれつきの身体の性(性別)ではなく、「社会や文化の中でつくられた性」で、「男らしさ」「女らしさ」といったイメージや、性別役割分担意識などに関する考え方を指します。例えば、「主たる稼ぎ手は男性」「育児休業は女性だけが取得するもの」といったイメージは、ジェンダーに基づく固定観念の一例です。

こうした価値観は、家庭や学校、職場などでの経験や周囲の影響を通じて、本人が気付かないうちに身に付いてしまうことがあります。その結果、思い込みや決め付けが無意識の偏見となり、他人を傷付けたり、自分の可能性を狭めたりして、生きづらさをもたらすことがあります。

では、性別による「らしさ」ととられず、互いを尊重し合い、「自分らしさ」や「その人らしさ」を大切にするために、私たち一人一人にできることは何でしょうか。まずは日常のコミュニケーションの中で、「考え方や感じ方は人それぞれ違う」と意識し、相手の考えや選択を尊重する姿勢を持つことが大切です。そうした小さな心掛けが、周囲との関係を豊かにするだけでなく、自分自身の生きやすさにもつながっていきます。

市では、ことし3月に「高知市男女共同参画推進プラン2026」を策定し、誰もが対等な一員として互いに尊重し合い、喜びも責任も分かち合える「誰もが自分らしく生きられるジェンダー平等社会の実現」をめざして、取り組みを進めています。皆さんも、自分らしく生きられる社会の実現に向けて、身の回りにおける性別による無意識の思い込みについて考えてみませんか。

【問い合わせ】人権同和・男女共同参画課 ☎823-9449



くらしの中のSDGs

Vol.37

誰もが自分らしく
生きられるジェン
ダー平等社会

今月のテーマ



【ゴール5】
ジェンダー
平等を実現
しよう

こうちミュージアムネットワーク(ハリーコラム)

歴史万華鏡

(159回)

野中婉女宅跡

本山町立大原富枝文学館
学芸員 大石 美香

朝倉神社南方の山麓、宇多宝院に野中婉女宅址碑が立つ。野中兼山の四女・婉がこの地で孤高の晩節を全うしたことを後世に伝えようと、大正十五年(一九二六)年に朝倉婦人会が建立したものだ。郷土史家寺石正路の撰文には、柳陰亭と号した婉を偲び婦人会が柳樹を植樹したと記されている。

奉行職として土佐藩の確立に奔走した野中兼山は、寛文三(一六六三)年、政敵の弾劾により三十年にわたる政權の座を追われ急逝する。翌年、父の追討により、わずか四歳の婉をはじめ子女八人とその母らは宿毛へ配流。以後四十年を竹矢来の獄舎に幽閉された。門外一步を禁じられた遺族が赦免となるのは、元禄十六(一七〇三)年、最後の男子貞四郎の自害によってである。婉は四十四歳になっていた。

大原富枝文学館には野中婉の書簡二十通の写しが保管されている。昭和十九(一九四四)年に大原富枝が県立図書館で筆写したものだ。婉は谷桑山への返信に「八十路あまりの老人式人つれ朝倉とやらんへ先ず参可申心組二御座候」と書き、赦免後も宿毛に安住する異腹の姉妹に対して、八十一歳の母と乳母を連れ朝倉へ

帰る道を選んだ。亡父兼山はじめ野中家累代の祖廟を建立するという、末弟貞四郎の遺志を果たすためであった。

医を生業に身を立て、赦免から五年となる宝永五(一七〇八)年、山田野路村(現土佐山田町)に念願の祖廟、野中神社お婉堂を竣工するのである。昭和三十四(一九五九)年の春、大原富枝は婉の取材に朝倉を訪れる。旧居は山際を山吹の生垣に囲まれ、裏山から流れ落ちる清水がせせらぎの音を立てて流れていたという。旧村役場で出土品の懐中鏡を目にし、簡素な柳の模様を認め婉の生涯に思いをはせた。同年十二月、大原は「婉」という女二百六十枚を脱稿する。

旧居横の電柱には高知県女医会が標識を掲げ、「婉の会」が跡地に憩切な案内板を設置している。

春、野中婉女宅跡を、青柳が柔らかく揺れていることだろう。

